

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで取り組む室戸らしさの継承と発展	まもる	環境 をまもる	調査を定期的に行い、環境のモニタリングをすることは重要。協力者の牧野植物園や四国自然史科学研究センターといった専門分野のカウンターパートがいることは評価できる。一方で、どのくらいの頻度で、どういう形で行っていくのかという点では課題が多く、現状持続的な形にはなっていないため、これを考えて行っていく。加えて、外来植物種の拡大がモニタリングの結果わかっているが、どのように対処していくのかも検討することも必要である。そのため、可能な部分で外来植物の駆除を試みる。	動物調査	無人カメラを設置して哺乳類を調査し・記録をまとめ、発信する。	室戸ジオパーク推進協議会、国立室戸青少年自然の家、四国自然史科学研究センター、市民
				植物調査	牧野植物園の研究者と一緒に植物調査を行い、標本や写真などを蓄積していく。レッドデータ調査にも参加する。	室戸ジオパーク推進協議会、市民、牧野植物園
				外来植物の駆除	室戸岬で大きな問題となっているウチワサボテン、ノジギクなどの駆除を行っていく。駆除に関しては、外部団体と協力して行う。	室戸ジオパーク推進協議会、市民、生涯学習課、Fine Science Laboratory、牧野植物園
			海ゴミ増加が認められているため、海岸清掃活動を継続的に行う必要がある。多様な主体の参加を促せるような工夫が課題となっているため、教育活動と連携させる工夫を目指す。	海岸清掃	海ゴミの回収やそれに伴う教育活動	室戸ジオパーク推進協議会、市民、四国EPO、高知市民会議
			海洋資源の持続可能な取り扱いについて、関係機関等と検討していくことが必要(日本7)。加えて海洋部分へのエリア拡大についての利点・欠点も分析する(ユネスコ2、ユネスコ公式5)。	海洋資源	同じ課題を抱えるジオパークや高知県と連携して、その取り扱いについて検討し、持続可能な取り扱いが出来ているものについては積極的に広めていく。また、海へのエリアの拡大についても検討する。	市民、室戸市産業振興課、高知県、JGN
			管理面では定期的な情報のアップデートが必要(ユネスコ16、ユネスコ公式2)	景観の記録	サイト等の巡視をしたり、活用時に写真を定期的に撮って記録する	室戸ジオパーク推進協議会、市民
		人 をまもる	避難所生活の学習	避難した後にはどうするか、という点での学習	室戸ジオパーク推進協議会、防災対策課、国立室戸青少年自然の家、社会福祉協議会、市民	
			避難経路や避難場所の活用	防災まち歩きだけでなく、避難所自体に親しめるような活動を模索していく。	室戸ジオパーク推進協議会、防災対策課、国立室戸青少年自然の家、社会福祉協議会、市民	
			プログラム運営者の育成	教育プログラム担当者の養成講座を行う。	室戸ジオパーク推進協議会、防災対策課、国立室戸青少年自然の家、社会福祉協議会、市民	
		文化 をまもる	文化を継承し伝えるためにも、地域に伝わる伝統芸能や祭りだけでなく、伝承、民話・逸話、音楽、伝統産業などを含めた無形文化遺産目録の作成が必要である(日本4)。文化的な観点からの情報の保護活動が必要である(ユネスコ5)。例えば、古くから伝わる伝統的な民芸品に関する情報や、無形遺産の保全活動の手法などがそれにあたる。	伝統文化の調査	文献や聞き取りにより、伝承や民話、伝統的な技術や産業の記録をとる。	室戸ジオパーク推進協議会、社会福祉協議会、生涯学習課、市民
			目録の作成	調査に基づいて、目録を作成する。地域学習等で目録を活用しやすい形に編集も同時に行う。	室戸ジオパーク推進協議会、社会福祉協議会、生涯学習課、市民	

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
●みんな で取り 組む 室戸 らし さの 継承 と発 展	まなぶ	調査・研究	地質・地形的な観点から羽根や吉良川、佐喜浜の内陸部に新しいサイトを設置できたが、歴史・文化的な繋がりについても述べられるようにする必要がある。また、中川内の河岸段丘に関する看板は段丘を見ながら看板を見ることができるような場所に設置されていないという指摘がある(ユネスコ3d、ユネスコ公式3)。	歴史・文化視点のストーリーの強化	既存のサイトが持つストーリーに歴史・文化的な視点を補強していく。文献による調査や聞き取り調査により情報の収集を図る。(重複:まもる) 中川内の看板の設置については再度検討を行う。(重複:もてなす)	室戸ジオパーク推進協議会、社会福祉協議会、市民、顧問・アドバイザー
			多様な研究者が地域に入っているにもかかわらず、それを活用できていない。外部の研究者を有効に活用できれば、コンスタントに興味深い話題の提供や、情報の蓄積が行うことが出来ると考えられる(日本8)。	外部研究者の活用	研究助成、サイエンスカフェの継続と、パートナーシップ制度の運用。	室戸ジオパーク推進協議会、顧問・アドバイザー、市民
		展示	これまでの展示では室戸の地史解説に終始しており、地球全体の動きや歴史をとらえる視点が欠けていた。予備知識がない来訪者にも地球のダイナミックな動きが理解できるような展示の工夫が必要である(日本5)。 室戸におけるアップデートされた研究成果が、住民や来訪者にも理解できるような展示やブースなども必要である(日本8)。 基本的な地質情報(地質図など)が不十分。さらに地域の地質情報と、より広範囲での地質の成り立ちを関連づけて説明する必要がある。スケッチ的な絵の地質図のみが館内にあるだけで、パンフレット等にもない。ネット上でDLできるようにするなど学術的にもアクセスしやすくするべきである(ユネスコ1a)。 高知コアセンター/JAMSTECについて、展示しているコアとともにより詳しい解説が求められる。さらに日本国内のジオパーク地域から岩石や鉱物を集め展示し、室戸との関係についても解説されることが望ましい(ユネスコ1b)。	館内展示の改善	日本国内のジオパークエリアから岩石を送ってもらい、展示を作成する。 分かりやすい地質図と岩石を対応させることで、「日本の中の室戸」と広い視点で室戸の位置づけを行う。これにより地球の動きを見せられる展示を目指す。 加えて、近年の研究成果を表示できる展示を検討する。これらの展示内容を外部からもアクセスできるように、パンフレットやウェブ上で見られる工夫をする。 また、ボーリングコアのより詳しい解説に加えて、高知コアセンター/JAMSTECとの連携の解説も行う。 加えて、英語の説明分についても改定を行う(ユネスコ公式4、日本3)(重複:もてなす)	室戸ジオパーク推進協議会、顧問・アドバイザー、市民
				体育館の活用	巨大な地図を張ることで、日本列島の特徴や全国とジオパークを知る。地図を利用したアクティビティ(岩石の産地当て、ジオパークのテーマ当て)が可能になる。	室戸ジオパーク推進協議会、室戸市、顧問・アドバイザー、市民
		出版物	書籍が少なく、特にイメージブックのようなものがない(ユネスコ3a)。	学術情報の整理	展示の改善やイメージブック作成のために、学術情報の整理を行う。	室戸ジオパーク推進協議会、顧問・アドバイザー、市民
				イメージブックの作成	博物館の図録などを参考に学術情報等をイメージブックの作成を行う。	室戸ジオパーク推進協議会、顧問・アドバイザー、市民
		社会教育	防災イベントや避難訓練を行っているが、より実践的な技能や知識を学ぶ場が必要になってきている。	防災教育	廃校を利用した避難所体験のツアーを行うことで、実践的な知識・技能、心構えを身に付けることができるプログラムを運営する。(重複:まもる)	室戸ジオパーク推進協議会、防災対策課、国立室戸青少年自然の家、市民
			定期的にガイド養成やジオパークマスターの講座を開催している。運営面では専門員しかプログラムの指導を行えないという課題も指摘されている(JGC8)ため、今後も公開講座を行っていく必要がある。もう少し講座内容にバリエーションを持たせても良いと思われる。	公開講座の実施	定期的な養成講座・公開講座に加え、サイエンスカフェなどのように、多様な専門家の話を聞くことができるような場を作っていく。	室戸ジオパーク推進協議会、生涯学習課、国立室戸青少年自然の家、ガイド団体、市民
			室戸ジオパークへの理解を深め、室戸ジオパークの活動に協力してくれるような人材の育成を目的としており、これは継続して行う(ユネスコ公式3)。	研修会の実施	継続する(重複:ひろめる)	室戸ジオパーク推進協議会、生涯学習課、国立室戸青少年自然の家、ガイド団体、市民

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らし さの継承 と発展	まなぶ	学校教育		小中学校(市内)対象としたジオパーク学習・出前講座を行う	ジオパーク学習の時間を通して、自分たちが住んでいる町以外の場所を知る機会にし、室戸がどんなところかを楽しく知ってもらおう。	室戸ジオパーク推進協議会、ガイド団体、市民
			ジオパークについての学習やジオパークを利用した学習を行うことで、地域理解や郷土愛を育むだけでなく、ジオパークの活用を主体的に考える機会とし、持続的な社会のためにできることを学ぶ場とする。	ジオパーク学等の実施(高等学校(市内))	ジオパークで学んだことに基づいた探究活動から、身近なところから物事の考え方・とらえ方を養っていく。加えて、ランカウイ等の国外を含む他地域について学習することで、室戸を捉え直したり、他地域との交流活動から多様性を理解し認めあっていくことを学んでもらう。	室戸ジオパーク推進協議会、ガイド団体、市民
				市外の学校を対象としたジオパーク学習・出前講座を行う	室戸を舞台にジオパーク的な見方を学ぶことで、自分たちの地域に帰った後の学習のきっかけにしてもらう。	室戸ジオパーク推進協議会、ガイド団体、市民
		まがりラボ (体験プログラム)	GWや夏休み、企画展示などのイベント時に体験プログラムを行っている。地層キャンドルや化石レプリカなど、新しいプログラムが生まれたのも成果である。	体験プログラムの実施と改善	継続する。既存のプログラムの改良や新しいプログラムの考案なども行っていく。	室戸ジオパーク推進協議会

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
●みんな で取り組む 室戸らしさ の継承と 発展	もてなす	拠点施設	室戸世界ジオパークセンター来館者数の増加 室戸市民の室戸世界ジオパークセンター利用の促進 ジオパーク関連施設の有効活用(日本5)	室戸世界ジオパークセンター・フリーマーケット 展示のリニューアル・拡充 センター整備(体育館など) ジオパーク拠点施設の有効活用 ジオツアー拠点施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> センターの駐車場等を使用しフリーマーケットを開催 展示の追加、拡充、リニューアル、英語表記の追加とブラッシュアップ(ユネスコ公式4、日本3)(重複:まなぶ) センターの施設追加整備(まなぶチームと連携) 各拠点施設とジオストーリーとの関係を整理し、ジオパークセンターでポスター掲示を行う 室戸岬のジオツアー拠点施設の活用方法について施設の担当者と検討していく 	室戸ジオパーク推進協議会 市民
		受入体制	外国人観光客の受け入れ体制の強化(ユネスコ3e、ユネスコ公式4、日本9)	室戸ジオパーク英会話教室	<ul style="list-style-type: none"> ガイドや職員等に英語教育を行い、ジオパークの説明ができる程度にする。 多様な食習慣に対応するために講師を招き、市内飲食店、宿泊施設関係者との勉強会を開催。 	室戸ジオパーク推進協議会、ALT ジオガイド、高校生、拠点施設
		市場調査	持続可能な方法で、ゆったり滞在型の訪問者を増やすためのマーケティング戦略を打ち立てる(日本2,6)	ゆったり滞在型を増加させるためのマーケティング戦略づくり	<ul style="list-style-type: none"> ガイドツアー等の参加者に対してアンケート調査を実施し、その分析結果をツーリズム戦略にフィードバックできるようなシステムを構築していく。 室戸ジオパーク拠点施設を中心に地図を設置し、年代・どこから来たのかを国内外問わず調査し、少ないエリア及び年代に向けたアプローチをする(ひろめるチームと連携) 	室戸ジオパーク推進協議会 商工会 マーケティング専門家
		パートナーシップ	連携協定締結の基準を明確にして、連携協定締結のための骨組みを設けることで、マーケティングやブランディングに基づいたパートナー協定を促進する(ユネスコ公式6、日本2)	パートナーシップのための手法・基準の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 連携協定締結の基準や手法を検討し、一連の流れの中で簡潔に使える書式セットを作成する。ロゴ使用団体や様々な形での協力団体とのパートナー協定を視野に入れる。 	室戸ジオパーク推進協議会
		利用者の理解度調査	展示、看板、出版物やツアー(内容や構成)を継続的に改善していくために、チェックしてフィードバックする機能を加える(ユネスコ3a、ユネスコ公式4、日本8)	理解度フィードバックのシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> 展示、看板、出版物、ツアーなどを理解度を評価するための調査手法を検討し、実際に調査を行う。 	推進チーム、ガイド団体 室戸ジオパーク推進協議会
		企画展	センターでの常設展の他に、来館者が楽しめるような展示を定期的 に開催し、リピーターの増加につなげる。	企画展	<ul style="list-style-type: none"> 室戸ジオパークの生き物展 調査研究事業の成果発表展など 室戸市民とビジターが共に楽しめる企画展をおこなう 室戸の特産物、風景、その他自慢できる人、物の写真等を展示する。 	室戸ジオパーク推進協議会 市民 調査研究事業参加者

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
●みんなで取り組む室戸らしさの継承と発展	かせぐ	商品開発 ・販路拡大	地域外から訪れる観光客に対して室戸の特産品やそれをイメージさせるお土産物を開発し、地元経済の活性化、自主財源の強化を図るとともに、収益をジオパーク活動に投入することによって持続可能な地域づくりを推進する。	特産品を活用した商品開発及び販売	・お土産開発/販売(西山金時スイートルールケーキ、ジオせんべい、エコバックなど) ・商品生産ラインの確保・在庫管理	室戸ジオパーク推進協議会
			JGNネットワークを活用し、各ジオパークの特産品の認知・販売拡大を図る。	他のJGN加入地域との連携	他のJGN加入地域と連携し、各ジオパークの特産品の効果的な販売方法等の構築について検討する。	室戸ジオパーク推進協議会 JGN加入団体
		ジオツーリズム	室戸の一次産業を活性化させ、素材の良さプラスアルファを商品化することを目的とする。	一次産業の活性化につながるツーリズム開発	・収穫体験プログラムの開発 ・自分でさばいて食べる漁師めしツアーの開発	農協、農家、漁協、漁師、ジオツーリズム推進チーム、市民
			観光高額商品を開発する。	現在各地域で行われている体験プログラムを分析、商品改良を行い、ニーズに合った新商品の造成を進めるとともに、文化的・歴史的な行事を活用し、宿泊を伴うより高額な商品開発をすすめる。	・室戸ジオパーク域内にあるそれぞれの素材をセットで販売するための営業/協力要請活動 ・神祭、季節の行事/イベントに合わせたツアーの開発・実施	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			旅行者の滞在時間の延長に取り組む。	当地に行かなければ体験できないものや食べられないものなどのオリジナル性、企画性のある旅行商品開発を地域内の連携によって造成する。併せて事業主体の役割の明確化と品質管理体制など、管理運営体制の明確化を図る。	・ツアーに宿泊と飲食の素材を組み合わせられるようなシステムを確立する。ただし、商品のPRについては旅行業法に抵触しないように留意して実施する	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			教育旅行を開発する。	関西からの教育旅行を誘致するため、関係行政や観光関連組織と連携し、教育旅行に特化した推進体制を強化する。	・教育旅行に特化したツアールートを提案する(まなぶチームと連携)、各分野別のルートを設定する。 ・地質学的な要素だけでなく、文化、伝統、生物、歴史、環境などもツアーの中でストーリーとして伝えられるように提案する(ユネスコ3)。	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			山間部は海岸沿いとは異なる文化や景観を持つため、これを活かしたトレイルツアーの可能性について考える。	山間を楽しむジオトレイルツアーの検討	中川内(黒見)の河成段丘の景観は新たなジオトレイルの可能性があり、ここでのツアーは海岸沿いとは全く異なるものが提供できる(ユネスコ4b、ユネスコ公式3) ・山間の集落の文化や伝統に関する細かい情報を集め、ジオストーリーの作成を試みる。(重複:まもる、まなぶ) ・ジオストーリーをベースにしたトレイルツアーについて検討する。	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らしさの 継承と 発展	かせぐ	情報整備	国道沿いの食事処のみではなく、中道の食事処を知ってもらい立ち寄ってもらうことを目的とする。	むろとを食す！ブログ運営	市外から訪れた人から、食事処がわからないという声を聞くことが多いため、詳しい食事処ブログを作成して運営する。	地域の食事処、店主、市民
			WEB情報と紙媒体情報の使用目的を明確にする	一般旅行者の視点を重視して整理した情報を提供。 セールスキットの作成(簡潔にまとめたセールスシートの作成及び写真素材の整理)	・一般旅行者向けの情報はWeb媒体を基本とし、室戸への旅行者が「一目で見てわかる予約機能」を確立する。 ・各旅行会社等に対する営業として、パンフレットや冊子を作成し、室戸ジオパークが持つそれぞれの旅行商品についてまとめる。 ・バラバラに存在する素材をWEB上でも紙媒体でもまとめて発信できるようにする。	室戸ジオパーク推進協議会
			室戸ジオパークを訪れたいくなるようなきっかけをつくる	ふるさと納税返礼品を利用する	ふるさと納税の返礼品出品業者と連携し、返礼品を送付する際に上記の冊子を同封し、室戸に興味がある層に情報がピンポイントで届く工夫をする。	室戸ジオパーク推進協議会
			外国人観光客の誘客の強化する。	インバウンド向け情報整備	・外国人旅行者受け入れ拡大も視野に入れ、日英での発信を意識する。(ユネスコ公式4)	室戸ジオパーク推進協議会
	マーケティング	マーケティング及びモニターツアーの検討	アンケートとフィードバックの共有と活用	・旅行会社やツーリズム関連団体との連携 ・拠点施設への来館者情報の分析及びガイド等の参加者アンケートの結果の活用方法等を、旅行会社や高知県観光コンベンションと連携する(もてなすチームと連携)(日本2)。	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者、高知県観光コンベンション協会	

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで取り組む室戸らしさの継承と発展	ひろめる	市民参加	市民がジオパーク活動に主体的に関われる場を作る。	市民との交流(意見交換)の場を設ける。また、ジオパークについて市民が学べる環境をつくる。	・室戸ジオパークいどばた会議の実施 ・市民向け勉強会(ユネスコ公式3)(重複:まなぶ) ・市民が普段手元に置きPRできるための物品の作成検討	室戸ジオパーク推進協議会 市民
			これまで関わっていなかった市民が、主体的にジオパーク活動を共有できる情報の提供。	市民や転入者向けの広報内容の拡充	室戸ジオパークの予備知識のない市民や転入者向けのジオパーク入門のパンフレット等の作成	室戸市、室戸ジオパーク推進協議会
		情報発信	学術的な地質情報を求めるビジターや研究者らに対応できるように情報の整備を行う(ユネスコ1a、ユネスコ公式1)	学術情報へのアクセス	地質図などの情報をパンフレットに掲載したり、ネット上でダウンロードできるように、「まなぶ」「もてなす」と連携しながら行っていく	室戸ジオパーク推進協議会
			訪問者にジオパークを知ってもらって、輪を広げる	ジオストーリーの普及	食材とジオストーリー作り。飲食店で食材のストーリーを書いた「しおり」などを置いてもらったり、食のイベント実施の際は室戸のお塩を配るなど、お客さんが「室戸ジオパーク」を持って帰ることが出来るような状況にする。	室戸高校生、ガイド、地元の婦人会、飲食店、室戸ジオパーク推進協議会
				室戸ジオパークフォトスポットの作成	写真や風景に特化したパンフレットの作成、フォトスポット看板を作成することで、利用客が情報発信をしやすくし、観光客自身がPR役になれるようにする。また、まもるチームと連動してサイトの清掃による美しい景観の保持も行う。	室戸ジオパーク推進協議会
			ツアー、体験プログラムについての広報。	遊客を増加させるための広報活動を行う	市場調査にもとづいた提案から年代やエリアを絞った効果的な広報活動を企画・実施する。(旅行会社等へのツアーやお土産品設置の提案、折込専用記事の作成など)	室戸ジオパーク推進協議会 商工会 マーケティング専門家
			地元への活動情報の発信	市内広報やウェブによるニュース発信	室戸市広報や広報折り込み、ウェブ上で、活動の周知の頻度の向上を図る。	室戸ジオパーク推進協議会
				室戸ジオパークPR有線放送制作事業	土地のことに詳しい一次産業従事者・生産者に語ってもらう(ご苦労話、こだわりも)。そのストーリーを専門員がジオストーリーへ変換し、文書の記事だけでなく映像でもジオパークを知ることできるように入口を広く整備する。	一次産業従事者、室戸ジオパーク推進協議会、エフビット、市民
			オンライン販路の強化	オンラインサイトの利便化	商品の充実及びオンラインサイトの利便化	室戸ジオパーク推進協議会
		ネットワークへの貢献	ネットワーク貢献について新たに国際戦略を立てることが求められているため、貢献方法について考える(日本9)	貢献方法の再考	どのようにネットワークに貢献していけるのかを模索し、戦略を練る。防災教育(科研費)のプロジェクトは一つの提案になりうる。	室戸ジオパーク推進協議会
			GGNやJGNの他地域との交流	JGN/GGN活動への参加・経験や知識の共有交流活動と協働	国際会議、全国大会への参加やML等でのネットワーク活動への参加、現地審査員の派遣ランカウイUGGpなどとの交流事業	室戸ジオパーク推進協議会 市民、小学校、中学校、高校
			ロゴマークの利用基準の確立(ユネスコ3b、日本3)	ロゴマーク(室戸ジオパークのロゴ、室戸ユネスコ世界ジオパークのロゴ)の利用基準の作成	ロゴマークの利用基準をブランディングや利用者側の便益を想定した上で作成する。	室戸ジオパーク推進協議会 ロゴマーク利用者

室戸ジオパーク 第4期実行計画(2020~2023)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
		ロゴの活用	ロゴマークのブランド化(ユネスコ3b、日本3)	ロゴマークの積極的な使用促進	室戸ジオパークロゴマークを添付することでの売り上げ向上などの利益が地域コミュニティにわたるような成功例を作る。ロゴマークに合わせて、常にジオストーリーが語られることが重要である。	室戸ジオパーク推進協議会 ロゴマーク利用者